



第30回JA夏祭り
たくさんのご来場ありがとうございました♪

第62回道南畜産共進会

今金勢大健闘!!



▲ 黒毛和種経産 最高位 ななよし

第62回目を迎えた道南畜産共進会が、肉用牛の部は7月29日、乳用牛の部は8月19日に、それぞれ八雲町畜産共進会会場において行われました。

渡島・檜山管内から、肉用牛の部では22頭（内、今金より14頭）、乳用牛の部では56頭（内、今金より9頭）が出陳され生産農家の口頭の研鑽努力による改良成果が披露されました。

審査は厳格公正に行われ、今金からは肉用牛の部では「ななよし」（出陳者・佐藤弘一さん）が最高位の栄冠に輝きました。また、乳用牛の部においても経産牛で「エッセンス



▲ 乳用牛経産 最高位
エッセンス サンチエス アポロ ジヨーダン

サンチエス アポロ ジヨーダン」（出陳者・プロジェクトSEEDED）が最高位の栄冠に輝き、経産牛で「クリサンス エルメン スパーク ジジ」（出陳者・菊地ラツド）（出陳者・菊地章太さん）がそれぞれ準最高位を獲得しました。

全道共進会は、乳用牛が9月24・25日に安平町において行われる予定となっていています。今金勢からの出陳牛の活躍に期待しましょう！

NHKのテレビ番組「うまいッ！」で「今金男しゃく」が紹介されました

栽培のことだわりについて
説明する内ヶ島専務



NHK総合テレビで毎週日曜日午前6時15分から6時49

分まで放送中のテレビ番組「うまいッ！」に、「今金男しゃく」が9月4日の放送で紹介されました。この番組は、『うまいッ！』となるほどおいしい日本各地の食べ物を紹介し、その魅力を再発見することで食を支える人々と産地を応援・元気にする番組です。

番組の収録は8月10日から

11日にかけて行われ、生産者として当JAの内ヶ島道良専務理事とそのご家族が出演されました。収録は早朝から夜遅くまで行われましたが、その甲斐あって、先人から脈々と受け継がれてきた歴史ある「今金男しゃく」への生産者の想い・栽培へのこだわりが細部にわたり丁寧に紹介される番組内容となりました。

トマトの収穫を行う学生



8月上旬から9月にかけて、東京理科大学長万部キャンパスの学生らが今金町を訪れミニトマト収穫や今金男しゃくの収穫・箱詰めなど農作業アルバイトを行いました。今回参加した学生は合計8名。それぞれの都合に合わせ、概ね1週間～2週間程度農作業を行いました。この取組は、施設園芸作物等の収穫作業時の労働力不足解消や今金町農畜産物のPRを兼ねて、当JAが独自の取組として試験的に行いました。募集は6月に当JAホームページ上で行つたほか、職員が大学を訪れ学生向けに説明会なども行いました。

学生・組合員の双方にメリットがある取組として今後も継続して参りたいと思いますので、組合員の皆様のご理解とご協力をお願い致します。

最新型ドローンの試験飛行が行われました



飛び立つ瞬間
(手で投げて離陸します)

8月25日、道南NOSA-I

の呼びかけで最新式ドローンの試験飛行が実施され、関係者が多数参加しました。

今回試験が行われたのは「e Bee(イービー)」という機体で、小型固定翼であるということ、自律飛行・自動撮影を行うこと等が主な特徴となっています。今後の農業分野でのリモートセンシング活用の可能性が垣間見える試験飛行となりました。

今金男しゃくをPR！いも掘り体験大好評！



特産銘柄「今金男しゃく」のPRを目的として、JA・生産者が協力し毎年消費者を対象とした「いも掘り体験」を行っています。今年は8月14日、金原地区の伊藤良智さんに会場を提供頂き120名がいも掘りを体験しました。親子連れの参加者も多く、子供たちからは「じゃがいも大きい！」と歓声が上がり会場は賑わいをみせていました。

「第30回JA夏祭り」たくさんのご来場 ありがとうございました



恒例のbingo大会を
楽しむ子供たち

8月5日、第30回目を迎えた恒例のJA夏祭りが行われました。当日は晴天に恵まれ組合員の皆様のほか町内外から多くの皆様に会場を訪れて頂きました。

毎年、組合員や町民の皆様へ日頃JA事業をご愛顧頂いている事に対し、感謝の気持ちで祭りを開催しております。これからも地域に貢献できるよう事業を展開して参りますので今後とも宜しくお願い致します。

今金男しゃく「坪堀調査」を実施



調査実施にあたり
打ち合わせを行う様子

今金町畑作部会（川崎敏彦会長）は8月24日、今金男しゃくの坪堀調査を行いました。この「坪堀調査」は町内全域の今金男しゃくの収穫量や規格品がどの程度あるのかを把握し、効果的な販売戦略を立て有利販売に繋げられるように行う重要な調査です。降雨量が多い時期もあり品質面に心配もありましたが、全体的に収量・品質共に上々の調査結果となりました。

J Aグループ北海道「担い手確保育成支援事業」

説明会を開催



◆道内各地から多数の関係者が出席しました

8月26日、J Aグループ北海道による「担い手確保育成支援事業」の説明会が札幌市で行われました。この事業は地域の総合力発揮による担い手確保・育成に向けて取組の加速を実践する為に平成28～30年度の3ヶ年にわたり行われるものですが、担い手確保対策の他、ICT導入応援事業などが盛り込まれていますが、詳細につきましては今後必要に応じてお伝えして参ります。

米政策改革対応に係る

道南ブロック現地意見交換会



◆道農政部からの説明の後、90分間にわたり意見交換が行われました

8月22日、北斗市において今後の米政策改革に向けた対応等について、道南管内の町やJAなど関係者が集まり意見交換が行われました。特にJA系統組織からは不満と不安の声が多く出され、道農政部としても不透明な点が多い事から対策に苦慮している様子でした。水田を活用した農業全体に大きな影響を及ぼす事から今後の動向を注視する必要があります。

秋の収穫期、作業前にもう一度安全確認を！

年間の中で最も農作業事故の発生が多いのは、春作業が行われる4～5月頃と収穫期の9月頃です。北海道では、昨年平成27年には18名の方が亡くなっています。今年も7月末まで既に4名の方が亡くなっています。

改めて家族や農作業に関わるみんなで農作業事故のポイントを確認し合いましょう！

事故防止のための注意点

□農業機械作業の注意点

- 機械の修理・点検や稻わら等を除去する時などは、必ずエンジンを停止させましょう。
- 道路の路肩や、ほ場の出入口、傾斜地でのトラクター等の転倒、転落に十分注意しましょう。（万が一の場合に備えて、安全キャブ又は安全フレームを装着しましょう！）
- 作業を始める前には、農機具の取扱説明書の確認や、整備点検を行い、安全な運転操作に努めましょう。
- 機械に衣服などが捲き込まれないよう、作業に適した服装で作業しましょう。



□農業機械作業以外での注意点

- 脚立やはしご等を使って作業する場合は、落下や転倒をしないよう、足場に十分注意しましょう。

□万一の事故に備えた労災保険の加入

- 事故が発生した場合に備え、労災保険に加入し、必要に応じて障害共済等の各種任意保険にも加入しておきましょう。（労災保険に関する問い合わせは管理課まで）

J A グループ通信

J A グループの連合会・中央会の活動内容を紹介します。

J A 北海道大会決議事項の実践やそ
の時々のトピックスなど、組合員の皆
様に定期的にお伝えします。
各団体の詳しい取り組み内容はWE
Bサイトをご覧ください。

J A 北海道中央会



J A 北海道大会決議事項である「サ



ポーラー550万人づくり」に向けて、
道民の皆さんに食と農・J Aの魅力を
伝えるスマートフォンアプリ「JA2
MP（ジェイエイジヤンプ）」のダウン
ロードを開始しました。

ホクレン



酪農生産基盤強化対策の一環とし
て、北海道特有の冬場の子牛事故率の
低減に向けた「冬期子牛飼養環境向上
支援事業」を実施します。

具体的には、出生直後の子牛を暖め
る機械装置や分娩監視モニター等の導
入助成を行います。今年の冬、子牛の
寒冷ストレス対策の強化に向けて本事
業をご活用いただき、将来の経営基盤
の基礎となる優良後継牛の生産にお役
立てください。日程・事業内容の詳細
は、J A担当課へ問い合わせください。

J A 北海道信連



北海道若手女性農業者集団「Links」
のメンバーを講師に、小学生とその親
を対象とした「学ぶ・作る・食べる旬
食カレッジ『札幌 親子料理教室』」を
開催しました。
「料理教室」と「食の講演」
を通じて、地域の皆さんに
地元食材のファンになつて
もらい、さらに J A バンク
の商品・利便性を紹介し、
サポートにつなげるこ
とを目的としています。



J A 北海道厚生連



共済ホールで、「全道LA・スマサボ
大会」を開催し、前年度の普及活動で
優秀な成績を収めたLA62名と、ス
マサボ29名を表彰しました。
J A 共済では、これからもLA・ス
マサボによる「3Q訪問活動」と「あ
んしんチェック」の実
践を通じて、組合員・
地域利用者の信頼と
期待に応え、「安心」
と「満足」の提供に努
めて参ります。



組合員ならびに地域住民の皆様の生
命と健康を守るために、本会事業の積極
的な啓蒙推進を図ることを目的とし
て、広報誌「すまいる」を発行してお
ります。年3回発行しております。様々な
医療・健康情報を発信しております。
ホームページにバックナンバーを掲
載しております。是非ご一読ください。

J A 共済連北海道

檜山農業改良普及センター檜山北部支所より営農情報9月号

()は、8月15日作況調査の平年値との遅速日数

今後の農作物管理		今後の農作物管理	
水稻(遅5日) <p>成熟期(登熟積算気温:950℃到達)の見込は、標準(成苗ななつぼし、出穂期:8月3日)で9月16~17日頃となります。(8/23予想)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・すぐ収穫体制を整えましょう！ ・収穫・乾燥調製に向けた準備 コンバインや乾燥機等の整備・清掃を。二段乾燥を行うための一時貯留方法もご検討下さい。 ・収穫適期の判定は玄米サンブルで 収穫適期が近づいたら、ほ場単位で平均的な場所から数株刈取り、1~2日乾燥後、適期判定へ。 ・収穫作業 収穫した生穀は長時間放置せず、速やかに乾燥を。刈り始めや気温の高い状況では「ヤケ米」の発生に注意。 コンタミ防止のため、品種が変わった場合は機械の清掃などに注意。倒伏カ所などは別刈りで、品質低下を防ぐ。 ・乾燥・調製 胴割粒の発生を防ぐために、急乾・過乾に注意しましょう。 ①毎時乾減率は0.8%以下に、 ②一時乾燥は18%以下に ③仕上げ水分は14.5~15% 乾燥後の放冷は十分に、穀温が低下してから初搗りを。 米選・調整は出荷基準に従って適正に進めましょう。 ・収穫後のほ場管理 収穫後は、速やかに心土破碎の実施や水の溜まるところでは「溝切り」実施ではほ場の乾燥化を促す。排水の良いほ場では稻ワラの秋鋤込み(スタブルカルチ等による粗耕起)を行って下さい。ローテー耕は避ける。 	小豆(-1日) <ul style="list-style-type: none"> ・最後の防除を行いましょう 莢の中に侵入し食害するアズキノメイガの発生が見られます。収穫前最後の防除を行いましょう。 ・時期を逃さず収穫しましょう 収穫の目安は、 　にお積みする場合 : 熟莢率70~80% 　コンバイン収穫の場合 : 熟莢率100%及び子実水分16~18%です。 収穫遅れは、子実水分の低下による損傷粒の発生・品質低下を招きます。また、脱粒による収穫ロスにもつながります。基本的に茎葉より子実水分を優先し、収穫遅れのないように作業を行いましょう。 	畑作 <ul style="list-style-type: none"> ・てんさい(早7日) ・褐斑病の防除 褐斑病は気温が高く、周期的な降雨があると急激に蔓延します。天気に注意し、散布間隔があきすぎないよう引き続き防除を継続して行いましょう。 	
秋まき小麦 <ul style="list-style-type: none"> ・は種時期が近づいています。は種日・は種量を守ろう。 茎数は多くても、少なくとも多収には結びつきません。 は種適期:9/18~9/24 は種量5~6kg/10a 　遅まき:9/25~ は種量6~7kg/10a (今金アメダス平年値 千粒重39.5gで計算) は種の機の調節をきちんと行った上で、は種しましょう。 ・除草剤について 雑草の種類によって、散布時期や除草剤の種類を決めましょう。特に、イネ科雑草に対しての除草剤は、秋のみの使用となっていますので、散布時期を逃さないように注意が必要です。また、越年雑草も秋に除草剤処理することにより、効果が高くなります。 ・ばれいしょ(早2日) ・打撲を防ごう！ 収穫物のキズや打撲は品質劣化につながります。これを回避するために、収穫機械の調節・整備、特に緩衝材部分の調整を行いましょう。また、収穫時にコンベヤの回転速度・搾取り刃の深さを調節しましょう。 収穫は茎葉処理後10日以降、ほ場が乾いた晴天の日に行いましょう。寒い日に行うと打撲が多くなります。 ・収穫後のほ場整備に努めましょう。 速やかに次の作物に入れるように、緑肥のは種や堆肥散布などのほ場の整備を行いましょう。また、収穫後のほ場に残った小イモは拾い上げ、野良生え防止に努めましょう(野良生えは病害虫を増加させる大きな要因です)。 	牧草(早2日) 飼料用とうもろこし(遅3日) <ul style="list-style-type: none"> ・残暑対策を行いましょう 9月は昼夜の気温差が大きく、畜舎内の湿度は高めに推移します。 残暑が予想されるため、引き続き扇風機で牛体に風を当てたり、トンネル換気等で畜舎内の温度や湿度を下げて牛のストレス低減を図りましょう。 ・飼料用とうもろこしの適期収穫と調製 ほ場で子実熟度を確認し、黄熟期を目標に計画的に収穫しましょう。 切断長は黄熟期で9~12mm程度とし、切断面を鋭利にするためハーベスターの刃研ぎをこまめに行いましょう。 	畜産 <ul style="list-style-type: none"> ・アブラナ科野菜 「ブレバソンフロアブル5」や「フェニックス顆粒水和剤」などの、ジアミド系の薬剤に抵抗性を持つ「コナガ」が発生していますので、効果が低い場合は、速やかに他の薬剤を使用しましょう。 ・ブロッコリー 花蕾腐敗病、軟腐病の発生を防ぐため「スターナ水和剤」や「ベジキーパー水和剤」、「コサイド3000」等で予防的に防除を行いましょう。 ・だいこん・こかぶ 引き続き、コナガ及びアオムシの発生に注意しましょう。 軟腐病対策は、「バイオキーパー水和剤」や「ジーフайн水和剤」などで予防除を基本にします。発生状況に応じた薬剤を選択しましょう。 ・にんじん 黒葉枯病は、肥大中~後期(は種後70~80日)に発生しやすい主要病害です。収穫までの日数を考慮し計画的に防除を行いましょう。 また、この時期は収穫前の降雨による「割れ」の発生が多くなります。水稲や馬鈴薯の収穫作業と競合する時期ですが、天候を見ながら、適期収穫を行いましょう。 ・軟白長ネギ 9月に入ると気温も下がり始め、サビ病の発生が心配されます。風雨により葉が傷つくと発生するので注意して下さい。 ・ミニトマト 9月以降は、生育が緩慢になるとともに肥料、水の必要量も減ってきます。かん水量を調節し、草勢を維持するようにしましょう。また、過度な追肥で着色不良や果実の生育遅れが発生します。適正追肥を心がけましょう。 また、草勢が落ちると、うどんこ病が発生がしやすくなります。特に昨年発生したハウスでは発生しやすくなるため注意します。「アフェットフロアブル」等により灰色かび病との同時防除を行いましょう。 	
畠作 <ul style="list-style-type: none"> ・大豆(±0日) ・マメシングイガ防除の徹底 普及センター設置のフェロモントラップに飛来が確認されています。マメシングイガによる収穫物の食害が年々増えています。全道的に発生自体が増加していますので、防除を徹底しましょう。 ・ほ場に「イヌホオズキ」が生えていませんか？ 大豆ほ場に限らず、イヌホオズキの生えているほ場が見られます。収穫時に黄大豆の汚粒発生源となりますので、収穫前に全て抜き取りましょう。 ・イヌホオズキ(ナス科、1年草) 8~9月に白い花が咲き、実は丸く、熟すと黒くなります。この黒い実が大豆収穫時に汚粒発生源となります。近年はイヌホオズキに特に効果がある除草剤も販売されています。 			

ポイント
貯まる!



JA²MP無料配信スタート!

農業イベントや関連施設のチェックインスポットラリー、直売所から発信するオススメ農畜産物情報など、JAグループ北海道ならではの、おトクなコンテンツが満載です！

食と農の
おトクな情報に
ジャンプ！
JAグループ北海道の
スマホアプリ。

チェックインスポットラリー

農業イベントで、
ポイントを貯めよう！

季節の農業イベントや、全道各地に多数あるJAグループ北海道の関連施設（直売所、ガソリンスタンド、JA銀行ATM、医療施設、Aコープ等）にチェックインすると、ポイントが貯まる！週末などにお出かけの際は、近くのチェックインスポットを探すこともできる、便利で簡単なポイントラリーです。ポイントを集めると、豪華な景品が当たるプレゼント抽選会に応募できます。



オススメ農畜産物情報

直売所からの、
とれたて情報をゲット！

全道各地にあるJAの直売所から、旬の野菜、地域自慢の特産品などの情報をタイムリーに発信！お出かけ先近くの直売所で何が売られているかも、簡単にチェックできます。中には、そこでしか手に入りにくい、珍しい農畜産物も…？さらに、直売所までのルートもすぐにナビゲート！



今月の特集

テーマにそって、食と農に関するおトクな情報や、季節の楽しい農業イベントなどを次々とご紹介！毎月更新していく予定ですのでお楽しみに！

お知らせ

食と農に関する耳よりなニュースを、各JAグループ北海道からお届けします。

ダウンロードは
コチラ



●動作環境：iOS 8以降、Android OS 4.4以降を推奨。※OSのバージョン、機種により正しく表示されない場合があります。
●左記は今後予告なく変更となる場合があります。
●[Android]「Google Play」は、Google Inc.の商標または登録商標です。●[iPhone]「App Store」「iTunes」は、米国およびその他の国々で登録されたApple Inc.の商標または登録商標です。●本アプリのダウンロードおよびご利用には別途通信料がかかり、お客様のご負担となります。[本アプリのバージョンアップの際や本アプリが正常に動作しないことにより再設定などで追加料金が発生する可能性を含みます。]

*画像はすべてイメージです。

J A 広報いまかね490号 ホームページ <http://ja-imakane.or.jp/>

発行：今金町農業協同組合 住所：北海道瀬棚郡今金町字今金141番地 電話：0137-82-0212(直通)

編集：営農部農業経営課 印刷：今金はやし印刷社